

木造軸組工法の標準仕様

■地盤調査

建築工事に先立ち、「スウェーデン式サウンディング」による地盤調査を行っており、引き渡しから10年間の保証が付いています。

■基礎

標準仕様で「ベタ基礎」を採用しています。敷地を掘り下げ碎石を敷き、さらに防湿シートで覆った上に、太さ13mmの鉄筋を200mmの間隔で格子状に張り巡らせ、厚さ150mmのコンクリートで固めます。その後、地盤面から高さ400mm、幅120mmで垂直にコンクリートを立ち上げ、土台との間に通気用のパッキンを並べます。こうすることで立ち上げ部に欠損が無くなり、頑丈な基礎となります。



栗石敷設



防湿シート敷き

■土台

基礎に次いで家を支える重要な部分ですから、乾燥や湿潤により変形しにくい集成材を用いています。



立上り部ベース配筋



ベースコンクリート打設

■構造材

柱や梁など重要な部分には、乾燥によって反ったり縮んだりするのを防ぐために集成材を用いています。現在流通している無垢材は、十分に乾燥されていないものが多く、時には、竣工時にクロスが破けたり、建具の建て付けが悪くなる原因となります。そのため、主要箇所には集成材を使用するのです。



ベースコンクリート打設完了



配筋完了

■剛床工法（根太レス工法）

2階の床は、厚さ28mmの合板を梁に直接貼り付けることによって変形を防ぐ、耐震上もとても効果的な床工法を採用しています。



型枠組立て完了



住宅基礎構造図

■耐力壁

地震や台風などにより建物に生じる力を支えるために、筋交いや構造用合板により強度を増した耐力壁を、バランスよく配置しています。さらに外壁部分の耐力壁は、断熱材を隙間無く張れるように、厚さ9mmの構造用合板を貼った面材耐力壁としています。

■サッシ

全居室のサッシは、遮音・断熱効果の高い、総幅18mmのペアガラスを採用しています。

■シックハウス対策

建材から接着剤にいたるまで、ホルムアルデヒド発散量をもっとも少なく、建築基準法上、仕様制限の無い、JIS・JASなどの表示記号が「F☆☆☆☆」のものを使用しています。

■住宅瑕疵担保責任保険

「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、財団法人住宅保証機構による住宅瑕疵担保責任保険に加入していますので、建築工事の際には建築基準法に基づく検査のほか、基礎配筋工事完了時と屋根工事完了時に機構の検査を受けています。また、これにより「構造体力上主要な部分」と「雨水の浸入を防止する部分」において、引き渡しから10年間瑕疵の補修について保証が摘要されます。